



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 馬場 一美
編集責任者 広報委員長 丸岡 靖史
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

退任のご挨拶

内科クリニック 科長 井上 紳



1980年(昭和55年)に昭和大学を卒業して以来40年間、主に高血圧や心臓疾患を中心に診療してまいりました。また、不整脈病理や動脈硬化、心筋梗塞や心筋疾患などの研究にも従事してきましたが、1995

年(平成7年)から2年間オランダ国アムステルダム大学の心臓病理研究室に留学する機会をいただきました。

ヨーロッパでの生活は研究面のみならず、私自身が欧州の歯科医療を受ける機会があり、彼の地のホームドクター制度や保健医療体制を知ることができました。また、研究室のほか現地のスポーツ施設やホームパーティなどでの交流で、視野を広げることが出来ました。

帰国後は2000年(平成12年)から旧豊洲病院内科勤務を命じられ、江東地区で広く内科一般の診療に従事しましたが、2005年(平成17年)から昭和大学歯科病院にて教育および診療に従事することになりました。赴任当時の川和歯科病院院長や宮崎歯学部長のご配慮のもとでプライマリケアを基本に、全人的な診療にあたる体制の構築に努めました。

ゼロからのスタートで数年間は歯科各科とどのように連携を深めていくか悩みましたが、現在は患者さんの紹介もスムーズになり、内科外来の予約も埋まるようになりました。患者さんや教職員、研

修医や歯学部学生など、幅広い年代層のさまざまな症状に対応するため、診断技法のみならず検査体制の構築も課題でした。そのため昭和大学病院の各科・各センターとの連携を進めることにも努めました。

疾患対象として、高血圧や高脂血症、糖尿病などの生活習慣病の治療のほか、各種感染症や消化器疾患についても歯科病院臨床検査室や昭和大学病院内視鏡センターのご協力のもとで診療してきました。生活習慣のほか四肢等の慢性の痛みに対する対処の仕方なども、ジム通いで会得した経験をもとに対応してきました。

高齢の患者さんでは認知症やサルコペニア、骨粗鬆症の診断と対策、中年の患者さんにはカロリーを中心として食事内容と運動処方、若い患者さんには不安定になりがちなプライドとモチベーションを重視して対応してきました。

歯科病院での内科診療の特色として、主として自律神経に及ぼす歯科受診時の不安のコントロールがあり、各種抗不安薬や交感神経遮断薬を処方するとともに、口腔違和感や頭頸部の慢性疼痛などにも対応すべく努めてきました。このため、疼痛学会や心療内科の講習会等に参加して知識の習得に励みました。

今後は後任の先生達にバトンを渡しますが、歯学部総合内科学ならびに歯科病院内科クリニックへの更なるご援助、ご指導を宜しく願いいたします。また、昭和大学歯学部ならびに歯科病院の末永い繁栄をお祈りしております。



今年の3月末日をもちまして昭和大学を定年退職いたします。

私は東京医科歯科大学を昭和54年(1979年)に卒業後、同大学大学院で口腔病理学を学んでから同大学の第2口腔外科で外科治療の基本を学び、その後、昭和大学歯学部第3歯科補綴学講座の芝 燁彦教授と五十嵐 順正助教授(後に東京医科歯科大学教授)からのお誘いを受けて、昭和60年(1985年)4月に本学に着任しました。以来、瞬く間に35年間に過ぎてしまいました。

着任当時の本学歯学部は新設歯科大学の雄としての活気に溢れ、どの講座においても新しい診療技術や歯科材料をいち早く取り入れて、旧設の歯科大学に追いつき追い越せという気概に富んでいました。また診療や研究においても自由闊達に取り組むことができ、そのお陰で前々年と前年にスウェーデンで学んだブローネマルク・インプラントを昭和63年(1988年)から本学歯科病院に導入し、今日に至るまで本格的に歯科インプラントの臨床と研究を行うことができるようになりました。

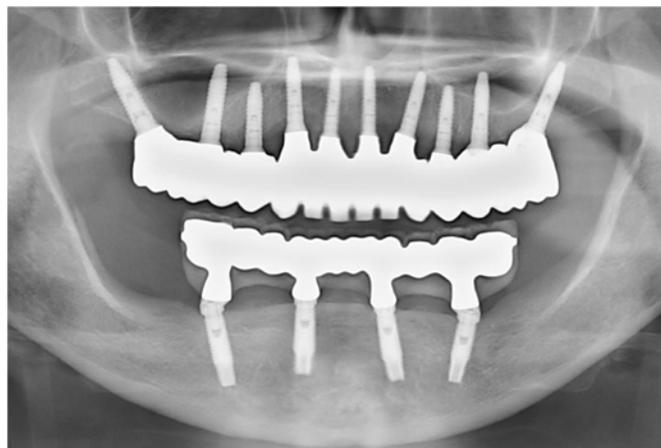
最初の頃は無歯顎の患者さんで、安定した入れ歯を作製することが難しい義歯難症例の方にインプラント治療を行っていました。その後、インプラント治療の技術の発展と経験の積み重ねにより、今日では1歯欠損から多数歯を喪失した部分欠損の患者さんにまで、また口腔腫瘍や交通外傷が原因で歯だけでなく顎骨を広範囲に欠損した患者さんにまで、インプラント治療が行えるようになりました。インプラント治療を受けて、とても喜ばれる患者さんの笑顔が、日々のインプラント診療の活力となっていました。これまでに治療をさせていただいた、すべての患者さんに心から感謝しています。

平成24年(2012年)にインプラント歯科学講座を開設してからは、歯学部4年生での講義と5年生での臨床実習(模型実習)においてインプラントの基礎から臨床までを学生にしっかりと教育することができ、他大学の関係者からは非常に羨ましがられる教育環境に従事することができました。

このように歯科インプラントの臨床、研究、教育に没頭することができたのも、本学の関係者ならびに当講座の医局員はもとより、患者さんをご紹介下さった他施設の先生方の多大なご支援のお蔭と心から感謝しています。35年間の長きにわたり支えて下さいまして本当に有難うございました。



患者さんは大学の10年先輩で、上下顎のインプラント治療にとっても満足されている。



インプラント治療後のX線写真
下顎は12年間、上顎は6年間、順調に経過している。

この記事が配信される直前に新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延により、東京オリンピック、パラリンピックがおよそ一年延期となることが決まりました。想像以上のスピードでこの感染症の災禍は世界を席卷し、イタリア、米国などその猛威に晒される国々の惨状があらゆるメディアで流されています。新型コロナウイルス感染症に対し、とくに力を注いで防護しなければならないご高齢あるいはさまざまな基礎疾患をお持ちの患者さんが当院にも数多く来院されています。そこで新型コロナウイルス感染症について解説を交え、当院の取り組みを紹介させていただきます。

3月11日世界保健機関(WHO)は新型コロナウイルスはパンデミックであると認定しました。パンデミックとは甚大な被害をもたらす世界的な感染症の流行を表す用語でその語源はギリシア語で「全て」を意味する“パン”と「人々」を意味する“デモス”で、全ての人々に害を及ぼすという意味が込められた用語といえるでしょう。

コロナウイルスとは太陽の周囲に見られる散乱光(コロナ)のような突起がウイルス表面を囲むように多数みられることから名付けられました(図1)。

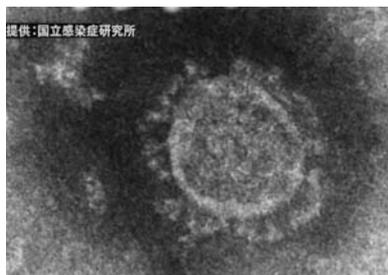


図1 新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真(国立感染症研究所提供)
ウイルス表面に太陽の周囲にみられる散乱光(コロナ)を連想させる突起物が多く観察される。

人に感染するコロナウイルスとしては、これまで6種類が知られ、そのうち4種類はいわゆる“風邪”を引き起こしますが、多くが軽症で治癒します。ほかの2種類のコロナウイルスは2002年～03年に中国で流行した重症急性呼吸器症候群(SARSサーズ)や2012年以降に中東諸国や韓国で流行した中東呼吸器症候群(MERSマーズ)の原因となり、重症化する肺炎を引き起こしました。

一方、昨年12月以降、やはり中国で感染が拡

がったウイルスはこれまで知られている6種類とは異なり7番目のコロナウイルスであることが判明しました。そこで「新型」と呼ばれ、この新型コロナウイルスによる肺炎を主とした疾患はCoronavirus Disease(疾患) 2019の下線太文字から「COVID-19」と名付けられました。

COVID-19はSARSやMERSと比べ、致死率はかなり低いものの高齢者や呼吸器疾患・糖尿病・心不全などの基礎疾患のある方、そのほか免疫能が低下している方では重症化しやすいので、該当する方はとくに感染予防に力を注ぐ必要があります。

当院にお越しの患者さんは診療する歯科医師や歯科衛生士がゴム手袋はもちろん帽子、マスク、ゴーグルまたはマスクと一体化したフェイスガード、エプロンを身に着けているのをご覧になり(図2、3)、ウイルスが蔓延している現場かとご心配される方もいらっしゃるかもしれません。



図2 診療時の感染防護スタイル(歯科医師)



図3 マスクと一体化したフェイスガード装着時

しかし、これは患者さんの口や鼻に極めて近い位置に接近して診療を行う歯科医療では患者さんが症状の無い不顕性の感染者である場合、通常の診療衣・マスク・手袋だけでは唾液や喀出物による飛沫感染や接触感染を高い確率で起こす

可能性があるからです。また、それとは逆に当院の診療スタッフが通勤中の不可避な状況などにおいて新型コロナウイルスに感染し、発熱などの症状がない不顕性感染者である場合も否定できないため、患者さんへの飛沫感染や接触感染を未然に防ぐためにも“防護スタイル”を簡略化することはできません。(図4、5)



図4 診療時の感染防護スタイル
(歯科衛生士)



図5 感染防護アイテム
上段右 ビニール製防護エプロン(ピンク)
下段左 マスクと一体化したフェイスガード
下段右 医療用ゴーグル

当院スタッフ全員は入念な手洗いとうがいを実施することに加え、出勤前に体温を測ることが義務付けられ、スタッフ一同、COVID-19の予防策を実行しています。さらに当院では診療で用いる歯科用器具は術者が把持する駆動部も含め全て滅菌済みで、個々の患者さん毎に滅菌済みの器具あるいは Disposable 器具を使用し、患者さんから他の患者さんへのあらゆる感染症の伝搬を防止しております。

この度のCOVID-19の終息がいつになるかは全く不透明ですが、私たちは安心、安全な歯科医療を患者さんに提供し続けるために、常に努力を惜しまぬこととお約束いたします。

現在、昭和大学では3月末までクラスターと呼ばれる集団感染を未然に防ぐため、学生の授業や実習、部活動などの課外活動を中止しています。また教職員も体温が高い場合などCOVID-19が少しでも疑われる場合は出勤を控えることが義務付けられています。

患者さんの皆さんも入念な手洗いを励行し、マスクを着けての外出などに加え、マスクではほとんど取り上げられていませんが、適切な栄養摂取

と十分な休養と睡眠をとることを心がけ、体力低下と免疫能低下を来さないように自己管理を徹底してください。

また不運にもご家族に一人でも感染者が出た場合には、感染が判明した時点で濃厚接触者であるご家族の誰かが既に感染している可能性が高いため、感染者を一人も出さないよう家族全員が感染予防と自己管理を日常的に徹底して行なう必要があります。ここまでの説明でお気づきかもしれませんが、感染予防と自己管理は家族の方に限らず直接的にあるいは間接的に接触する可能性のある人たち全てに求められ、移動手段が発達した現代社会では、パンデミックを抑え込むには地球規模で個々がしっかり対応することが必須になります。

展開が拡がり過ぎましたので、最後に感染が疑われる場合の対応についてご紹介させていただき、今回の緊急のお知らせの結びとしたいと思います。

まず感染が疑われる場合とは健康な方なら風邪のような症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く場合で、高齢者や糖尿病など基礎疾患をお持ちの方は2日程度続けば、お住まいを管轄する相談窓口で電話で相談しましょう。当院から近隣の窓口は下記をご参照ください。

また、著しい倦怠感や体調不良、呼吸困難があればできるだけ早急にご相談ください。なお、お電話はお掛け間違いの無いようお願い申し上げます。

- 大田区保健所 03-5744-1263
- 品川区保健所 03-5742-9108
- 世田谷保健所 03-5432-2111
- 目黒区保健所 03-5722-9896
- みなと保健所 03-3455-4461
- 川崎市コールセンター 044-200-0730
- 横浜市コールセンター 045-550-5530

本掲載記事に対して、ご協力いただきました本学医学部内科学講座臨床感染症学部門・二木芳人教授、歯学部スペシャルニーズ口腔医学講座口腔リハビリテーション医学部門・高橋浩二教授に心より感謝いたします。

定年退職挨拶

高齢者歯科 准教授 北川 昇



卒業と同時に昭和大学にお世話になり、昭和、平成、令和と長い間で個人的にはあつという間の36年間でした。毎朝、洗足駅から歯科病院に通勤する時に環七を越えて遥か遠方に望む富士山の姿には、心洗われるものがありました。組織の改編で高齢者歯科学講座となりましたが、入局当初からいわゆる、総義歯(総入れ歯)を専門として診療をさせていただきました。平均寿命の延伸で、

昔に比べて飛躍的に歯が残っている高齢者が増えました。健康寿命の点でもメリットが大きい反面、難症例も増加していると思います。しかし、優秀で信頼のおける後輩が多数おりますので、私の退職後も安心して治療を継続していただきたくお願いいたします。

本当に多数の方々に支えていただきました。この場をお借りして心から感謝申し上げます。有難うございました。

定年退職挨拶

歯科放射線科 講師 花澤(西野) 智美



この度、3月末日をもちまして定年を迎え、退職することとなりました。

月日が経つのは本当に早いもので、歯科放射線科に入局して28年間、私が今日まで勤め上げることができたのは、私を導いて下さいました諸先輩の方々、そして私をサポートして下さいました皆様のお蔭と、心より感謝いたします。

新たな検査法や次々に遭遇する稀有な疾患

に、画像診断の難しさと奥深さを実感する毎日でした。今後も終着駅のない画像診断学に真摯に向き合い、自己研鑽を積んでいく所存です。

最後になりましたが、在職中はひとかたならぬお世話になり本当にありがとうございました。皆様さらなるご健勝とご活躍、そして昭和大学のさらなる発展を心よりお祈り申し上げます。

看護師長退任のご挨拶

看護部 看護師 相澤 寿子



私は、1988年に藤が丘病院に就職し、2000年4月1日付で北部病院開設準備室へ異動となり、2015年3月1日付で歯科病院に異動してまいりました、

歯科病院では、医科と歯科の違いに戸惑いながらも、皆様の支援やご協力により、クリニカルパス導入や病床稼働率アップ・手指衛生順守率の向上等、多少なりとも成果を上げる

ことができ、貢献できたのではないかと自負しております。

歯科の分野で日本一の病院を目指し、皆様のご活躍と益々の病院の繁栄を願っております。

皆様に支えられ無事定年退職の日を迎えることができました。今までお世話になり本当にありがとうございました。

定年退職のご挨拶

歯科衛生室 係長 小出 洋子



本年3月に定年を迎える事となりました。彩り豊かに充実した35年間を勤める事が出来たのもひとえに患者さん、先輩同僚、多職種の皆様にご指導いただき支えていただいたおかげと深く感謝申し上げます。皆様のご健勝と歯科病院の益々のご発展を心よりお祈りいたします。

定年後も引き続き歯科病院に、お世話になります。今後とも変わらぬご厚情を賜りますよう、お願い申し上げます。

皆様のなご一層のご発展をご多幸をお祈り申し上げます。

定年退職のご挨拶

補助員 永田 恭子



薬学部を卒業後、少し寄り道をして小児歯科の研究補助員になりました。その後、高齢者歯科と歯科補綴科のお手伝いもさせていただき、好奇心の強い私には楽しい職場でした。ありがとうございました。

歯科病院の益々のご発展を祈念しております。

定年を迎えて

歯科技工士 川久保 良美



昭和52年昭和大学歯科病院開業後、56年歯科技工士として採用され、病院の発展共に医療人として成長させて戴き、ありがとうございました。在職中に、お世話になった多くの皆様に篤く御礼申し上げます。益々の発展を、祈念しております。

定年を迎えて

技術員 安藤 雅弘



昭和53年4月入職以来の永きに渡り大過なく勤めることが出来たのは多くの皆様の温かいご指導とご協力のおかげだと思っております。

充実した日々を過ごす事が出来た事を、この場をお借りして皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。

定年退職のご挨拶

事務員 千葉 克美

3月31日をもちまして、定年となりました。

入職以来、永きにわたり、大過なく勤めることができたのは、皆様の温かいご指導とご協力の賜物であると心からお礼申し上げますとともに深く感謝しております。

編集後記

3月に入り、春を迎える季節になりました。桜も満開となり見頃を迎えています。最近では新型コロナウイルスの影響により自宅で過ごす事が多くなっていませんか？窓を開け空気の入替をする事で春の気配を感じられるかもしれません。

また感染予防には正しい手洗いが大事です。親指の付け根、手首までしっかり洗い健康に過ごすようにしていきましょう。

(K.M)

